

## TOEFL

開倫塾  
塾長 林 明夫  
(宇都宮大学大学院工学研究科)  
客員教授

A : (林明夫 : 以下省略)

- (1) 安倍内閣は教育再生を国の柱に掲げ、下村博文 文部科学大臣をその中心に据えて、教育再生会議で本格的な議論を始めました。
- (2) 教育再生の 1 つが英語教育の改革です。大学入試から英語をなくして、TOEFL という海外留学をする人のための国際的な統一試験で代用するという考えが、東京大学をはじめとする難関大学で採り入れられようとしています。
- (3) 中学校・高校と 6 年間も学校で英語を学習し、高校入試・大学入試と入学試験の勉強をしても、多くの日本人は英語によるコミュニケーション能力が十分に身に付いていない。社会に出ても英語ができずに困り果てる人が多い。従来行われている訳読型、つまり英語を読んで日本語に訳すことが中心の英語教育では急速に進むグローバル化に対応できない。
- (4) 英語が十分にできずに、外国に留学する人が減り続けていることも大問題。
- (5) そうであるならば、欧米諸国をはじめ世界各国の人々が外国に留学するときに受験する TOEFL という試験を大学入試の英語に代えて受験させ、英語については大学入試センター試験や各大学の試験は止めてしまおう。
- (6) 以上のような考え方が議論の中心になり、5 年後、つまり現在、中学校 2 年生が大学を受験する年から大学入試に代え TOEFL の本格的な導入が考えられているようです。
- (7) 大学卒業の条件として、また、大学院入試や国家公務員の英語の試験としても TOEFL を用いようという議論も行われています。
- (8) 大学院入試では、現時点でも TOEFL や TOEIC での合格点数が示される大学院が数多く見られます。就職試験でも TOEFL や TOEIC の点数を記入するように求める企業が増えています。昇進試験に TOEFL や TOEIC での一定以上の点数を求める企業も数多くあります。

- A : (1) まずは、学校での英語学習をしっかりと行ってくださいね。学校の授業を真剣に受け、予習・復習をして学校での授業内容を正確に身に付け、定期テストで 100 点を目指しましょう。高校入試の学習もきちんと行って、入試の英語も 100 点を目標にしてください。
- (2) これに加えて、準備学習を十分にした上で、英検も 1 つの級ずつ確実に取得してください。
- (3) 1 学年で 1 つの級でよいですから、英検 5 級・4 級・3 級・準 2 級・2 級と順を追って、で

できれば半年、少なくとも 1 年おきに 1 つの級を取得し、高校 2 年生の 1 学期までには 2 級を着実に取得することを御提案します。

- (4) 高校 2 年生の 1 学期までに英検 2 級に合格したあとは、1 年間かけて TOEFL の「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」の 4 つの英語の技能について受験準備を確実にを行い、まずは高校 3 年生で TOEFL120 点満点中の 65 点を目指すべきです。
- (5) TOEFL の試験会場ではコンピュータでの解答が求められますので、コンピュータを用いての出題と解答に慣れることが大切です。手元を見ずに答えを英語で入力するタッチ・タイピングのスキルを 1 日も早く身に付けられるよう、学年に関係なく練習を繰り返しましょう。
- (6) また、TOEFL の出題内容は高校や大学の教科書レベルですので、高校や大学の各科目の基本的な教科書や概説書を日本語で読み込んでおくと同時に、高校や大学レベルの内容を英語でも学習することが求められます。学年に関係なく、各科目の英語の教科書を手元に置いて読み込んでみましょう。
- (7) 各科目と同様に、英語の学習にも遠慮は一切不要です。学校の学習や受験勉強もしっかりと行いながら英検を 1 級ずつ確実に取得し、今、学習している内容を英語でも学習して TOEFL に耐えられるしっかりとした英語力を身に付けましょう。

A : (1) 大学入試改革の様子を皆様にお伝えすると同時に、今、何をしなければならないかを皆様と一緒に考えたいと思います。

(2) TOEFL 指導の体制を 1 日も早く整えたいとも思います。

(3) この改革は一見過激ではありますが、欧米だけでなく、韓国や中国、台湾、インド、シンガポール、マレーシア、インドネシアをはじめ世界の国々ではどこでも行っているものです。日本だけが例外であり続けてよい時代は終わったと私は考えます。この現実には真正面から立ち向かい、世界の人々に負けない英語によるコミュニケーション能力を身に付けましょう。

(4) 英語はできて当たり前。英語のほかに 2 ~ 3 か国語を自由に用いることができる人が世界には山ほどいます。がんばりましょう。

— 2013 年 5 月 10 日記 —